わが家・わが町の世間遺産（宝物）

わが家の宝物

志布志市立蓬原小学校ＰＴＡ教育文化部長　乙藤　瑠美

わが家の本棚にあるたくさんの本の中からセレクト

わが家の宝物は、絵本「もこもこもこ」である。この絵本は、子どもたち3人が大好きな本で、わが家に仲間入りして、今年でちょうど10年になる。ところどころ破けては、テープで貼り直して、長女から二女。二女から長男へとバトンパスしてきた大切な大切な宝物だ。

長女を出産したとき初めての育児で、毎日がどうしてよいのか分からず、不安だらけだったのを、今でも鮮やかに覚えている。小さくてふにゃふにゃの赤ちゃん。愛おしいのに、扱い方が分からない。お風呂に入れるたびに泣き、夜なかなか眠らない長女を何度ドライブに連れて行ったことやら。今、思い返すと笑ってしまう話も、当時の私たちは必死で肩に力を入れすぎて子育てしていた。何事も経験しなければ分からないようになっているのだ。

ある日、夫が借りてきてくれた本の中に、この「もこもこもこ」があった。やっと座れるようになった長女に絵を見せると、両手をばたばたさせて喜んだ。話せなくても、大喜びしている様子が体中から表れていて、夜寝る前には必ずこの本を読み聞かせた。そんな頃から自然に肩の力も抜けていったような気がする。

ありがたいことに、今でも子どもたちは本の虫。これも宝物のおかげさま。今日は久しぶりに3人膝にかかえて、もこもこもこってやってみようかな。本って素敵。

今月のことば

慈眼観

里見弴先生の遺墨「慈眼観」の文字が刻まれた記念碑

この言葉は、本校の偉大な先輩である小説家、里見弴先生が残してくださった言葉です。

先生は、「極楽とんぼ」や「五代の民」など、多くの傑作を世に出され、昭和34年には、文化勲章を受章されました。長兄、有島武郎（小説家）、次兄、有島生馬（画家）とともに、有島三兄弟としても有名です。

父有島武氏が本校の出身ということもあり、大先輩に学ぼうとPTAが中心となって親交を深めてきました。

先生は、昭和58年1月21日に91歳で他界されましたが、後日、御遺族から「慈眼観」と書かれた先生の遺墨が本校に届きました。「慈眼観」とは、「慈しみの眼で全てを見る」という意味です。先生はよく、この「慈眼観」の言葉を用いて「慈しみの心と厳しい目」を忘れるなと子どもたちに諭されていました。今でも先生の命日には「大寒忌」と称して有志が集い、先生の遺徳を偲んでいます。

先生の心が子どもたちの心に深く宿り、未来に生きる子どもたちの道を照らし続けることを強く願っています。

（薩摩川内市立平佐西小学校 校長　松尾　正昭）